

# O B 会 報

第七号

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部

O B 会 発 行

1967. 8. 1

## 夏合宿を成功させよう

### O B 会 事 務 局

O B 会が出来て七年目をむかえた。この間の当会の活動をみると、三つの時期に分けることができる。すなわち第1時期は昭和36年4月から昭和37年8月までの無活動期第2は昭和37年8月会報番号誌発行より始まり、昭和40年3月までの親睦団体時代、第3は昭和40年3月事務局設置同年10月新会則承認による活動期の三つである。この第三の時代の特徴は会則の事業目的に、ワンダリング、ワンダー

フォーゲル運動についての研究、ということが第一に掲げられているのをみても判るように、O B 会独自のワンダーフォーゲル運動を行なうというところに重点が置かれたことである。

事実、月例ワンダリングも続けられて、成果をあげつつあるが、O B 会独自のワンダーフォーゲル運動を行なうという点からいえば、テントを用いた合宿が行なわれてこそはじめてこの意図がとげられ

ることになるはずであつて、新会則の発行当時から夏の合宿ということは望まれていたことであつた。

本年はいよいよ、O B 会第一回の夏合宿の計画が出されている。合宿の予定地には、関西支部の人にも参加可能な京浜地区との中間地帯が選ばれることになつた。

ワンダーフォーゲルの活動の大きき要素が合宿である以上、我々はO B 各位の一人でも多くの参加を願つて止まない。第一回の夏合宿を成功させ、毎年夏の合宿を可能にすることはO B 会に第4の時代をもたらすものと考えられる。この意味で今回の合宿には重要な意味が存在する。我がO B 会は「むかしをなつかしむ会」を脱皮した。今は「きょうを楽しむ会」でもあろうか。たとすれば、ワンダーフォーゲルの性質からして、我々は

「あすを切り開く会」でありたいと望むわけである。

夏合宿を成功させよう。それはあなたが参加することだ。

(一期 嘉納)

### 第一回夏合宿要項

一、期日 八月十八日(土)日

二、場所 木曾御岳、開田高原

三、コース

(A) 十八日(十七日夜行) 東京、大阪、四日市など

—— 木曾福島 —— 西野 —— 開田キャンプ場 △

十九日 △ 御岳 —— △

二十日 △ 木曾福島 —— 東京、大阪、四日市など

(B) 十九日(十八日夜行) 東京、大阪、四日市 —— 木曾福島 —— 八海山 —— 御岳 —— △

開田キャンプ場

二十日 (A) に同じ

(C) 十九日(十八日夜行) 大阪、四日市 —— ヒダ小坂 —— 濁河 —— 御岳 —— 開田キャンプ場

二十日 (A) に同じ

四、費用 約三五〇〇円

# 新しい会員を迎えるにあたって

宮崎 繆 (二期)

私達の Y W V O. B. 会は、毎春現役が卒業生を送り出すと、彼等を新しい会員として迎えることとなります。三十六年第一期の卒業生以来、今春は第七期生を迎えることになり、会員数では現役 Y W V を凌ぐ大世帯になつてきました。新 O. B. 誕生も回を重ねる毎に、初期の卒業生とは次第になじみのうすい人達が多くなつてきています。しかし皆な在学時代には、Y W V に在部していたという太い綱によつて結ばれており、この会員相互の近親感によつて、O. B. 会は、現役時代とはまた違つた目的に向つて活動を行なつていると言えるでしょう。

さて、今春三月卒業した第

七期生を O. B. 会に迎えるに際し気がついたことをいくつか書いてみたいと思います。O. B. 会というものの性格論については、皆さんそれぞれご意見をお持ちのことと思います。そして現在会を動かしている事務局は、この O. B. 会を単なる旧 Y W V の卒業生の昔をなつかしむ親睦のための同好会とは考えず、それとは反対に、ある目的を持ちそれを行動によつて実現させようと活動を行なう集まりと考えていることは、皆さんも先刻御承知のことと思ひます。即ち O. B. 会は、大きく言えば、物事が正しく見える私達の目を養ひ、健全な余暇の活用により創造、生産意欲を促進させ、ひいては

世界平和を目ざしていると言つても過言ではないでしょう。ところで今春の卒業生は、この O. B. 会をどのように見ていたのでしょうか。一昨年秋から毎月行なつている月例 W、山小屋建設委員会をはじめとするいくつかの現役・O. B. 合同の委員会等を通して、O. B. 会の姿を正しく見ていただきつつたものだと思います。現役の Y W V が真の自由を追究し積極的な行動による活動を主目的とする部であるだけに、その卒業生は、大学を卒業すれば即ち O. B. 会員になるというような安易な考えでなく、卒業、O. B. 会入会ということを、若々しい正義感にもえるワンダラーとしての出発の契機としてほしいと考えるのは私だけでしょうか。大学生活最後の四年生の後半が卒業研究などで多忙なことはわかっています。しかし現役時代を整理

し、O. B. 会入会に対する意志表示くらいしていただけなかつたものでしょうか。何人かの人に同期生のとりまとめを依頼してあるのですがその返事もまだ届いていません。そして又、現役時代の部費の収納状態について調べてもらった結果、現役会計の不健全さが明らかにされることになつてしまいました。部費については昔からとかく滞納がちであつたように思いますが、卒業してしまつてなおその滞納総額が五万数千円というのは、ワングル創設以来の不祥事でしょう。O. B. 会としても、これは現役の問題であるとして、目をつぶつていられるわけには行かないのではないのでしょうか。O. B. 会事務局は、滞納者については、現役時代に納めるべき部費等を完納するまで、O. B. 会入会を認めないことにしました。しかしこのようなことは

入会を認めるとか認めないと  
かいうような問題ではないと  
思います。多額な滞納をして  
いる人にも悪意はないと思  
います。しかし自分達で話し合  
って決めた義務を無視し、そ  
のうちに何となく忘れてしま  
おうというのであれば、あま  
りにも青年らしくないやり方  
だと思いません。

又、去る三月の月例Wは初  
めの予定を変更し、さらに現  
役の総会も変更してもらって、  
今春卒業する人達のO,B会歓迎  
Wとして三月二十六日に奥多  
摩へ出かけました。しかし新  
O,Bとなる人には一人もおいで  
いただけず、幹事及び歓迎を  
準備しての参加者一同、何と  
なく拍子抜けしたような淋し  
いワンダリングでした。

しかし三月末という時が、  
卒業生にとつては新しい職場  
への赴任直前の多忙なときだ  
けにおいでいただけなかつた

ことも無理からぬことと思  
います。また一方、現在の現在  
Y,W,Vにおいて、四年生とい  
うことが、既にO,Bであるよう  
なシステムに、卒業生をして、  
O,B会における積極的な活動を  
躊躇させ、さらにO,B会入会の  
意志表示さえ欠く遠因がある  
のではないかと思いません。

現在のO,B会は、山小屋建設、  
Y,W,V創設十周年記念事業な  
どにとり組んでおりますが、  
このようなことだけにとどま  
らず、もつと夢は大きくもつ  
て、O,B会の活動に参画し、ア  
イディアと若い活動力を提供  
しようではありませんか。  
今年の卒業生には気の毒で  
したが、事実を明らかにし気  
のついたことを書いてみまし  
た。

## キャンプの

## 火事

皆様が、現役のために残し  
た、冬テントが四国の空に灰  
となつて舞い上り消えてしま  
いました。

と申しますのも、三月のワ  
ンゲル部のリーダー養成合宿  
で四国まで出かけたときの出  
来事です。  
~~ラックアウト~~

使用し、ガソリンに引火し  
てまたたくまに燃えてしま  
いました。部員三人がかなりの  
火傷を負いましたが、大火事  
にまでならず、不幸中の幸い  
でした。でも火傷を負つた家  
族の人の心配は大変だったと  
思います。ともあれ、ワン  
ゲル十周年記念にはあまりに  
も大きすぎる事件でした。こ  
の事件には幾多の本質的問題  
を含んでいると思えますが、  
詳細は遭難対策委員会より後

日報告いたします。

尚、場所は寺の境内だつた  
とのことです。

## 創立十周年記念

## 現役・UB合同

## 登山計画中

本年、五月一日をもつてワ  
ンゲル部も創立以来満十才を  
迎えました。

十周年記念として、種々の企  
画を計画中ですが、その一つ、  
秋に現役・O,B合同の十周年  
記念集中登山をしようという  
話が出ております。

山に御無沙汰した人も是非参  
加して下さいね。場所、コー  
スに關しましては、追つて連  
絡いたします。



## 月例ワンダリングに参加しよう!!

吉野 大次郎 (二期)

ギラギラと輝く太陽の下、額にしたたる汗をぬぐい見上げる紺碧の空。白銀の世界を自由自在に滑りまくる爽快感。ワンゲル出身の者なら誰でも経験のある一コマであろう。

学生時代：よい言葉である。しかし私の学生時代はいわゆる学生時代ではなくワンゲル時代という言葉があてはまる。

山に登り、スキーに行くということが私の四年間の生活の中心であった。すべてはワンゲルの合宿、個人ワンダリング計画を中心にして予定が組まれていた。それでもまだ山へ行く回数は満足いかず、もつともつと行きたいと常に思っていた。

このような四年間であったので、ワンゲル以外のことはほとんどできず(もつともやる気がなかったのが最大の原因であるが)非常に残念でならないような気もするし、反面、我が青春に悔いなしという気持も充分ある。

さて卒業、人並みに会社に入り早や五年間、気持だけは学生並みのつもりであるが実態は毎朝定時に出勤するサラリーマン。別にサラリーマンが嫌いというわけではないが、自由奔放であったワンゲル時代が懐しく憶げられ、衰えゆく体力を嘆きつつ毎日を淋しく送っているこのごろである。この間ワンゲルOB会はそれぞれ忙しい中にも折をみて

寄り集まり親睦を深めつつ山

への情熱を密かに燃やし続け

てきた。もちろん個々に、或いは各地方で、又会社の友人、サークル等と山やスキーに出

かけることはあり、全く山とサヨナラしてしまつたわけ

はないが、ワンゲルOBとしてのワンダリング、合宿とい

うものはほとんど実施できず、わずかに丹沢の追出しコンパ、

又熱心な一部の人達が現役のワンゲリングや合宿に細々と

参加していた程度であつた。嘉納先生が四日市から帰つ

てきてからはOB会をさらに充実させようという気運が高

まり、遂に月例ワンダリング第〇回が四十年七月栗駒山に

て柴田先生と共に催された。以後その年の九月の第一回か

ら毎月続けて行なわれ、その間宮崎先生のカムバックもあ

り既に一年半、わずかずつではあるが発展しつつ回を重ね

てきている。

この夏には東西合同で木曾御岳集中合宿をやるがという

話も出ており、この老骨が武者振いをするよううれしさを覚えている。

老骨に鞭打つて、テントやラジウスを背負い汗だくにな

つて登り、もはや下手クソになつているであろう飯盒炊

さんをして昔を懐しむ……ああ良き哉人生!

横浜国大ワンダーフォーゲル部OB会は、社会福祉団体

でもなければ、営利団体でもない。会員の自発的意志によ

つて運営される任意の親睦団体である。

我々会員は毎年千円の会費を払っているが、これをただ

取りされてたまるものか。OB会行事にどんどん参加して

元をとらなければ合わないゾ。月例ワンダリングは山ばかりでなく、夏は海水浴に、冬

はスキーに、さらには先程一寸ふれたような合宿等いろいろな企画がある。

近い将来山小屋ができれば、OB会の総会、月例W、パトワンダリング、さらには家族の慰安にとフルに使おうではないか。

OB会を生かすも殺すもOBG諸氏一人一人の双肩にかかっている。

全国のOB、OG諸氏よ、まず月例ワンダリングに参加しよう!!

## 月例ワンダリング

◎十一月二十日 幕山

江崎、宮崎、井上、跡部、谷上、原隆子、岡本幸、所

みかんの林をぬけて、直登直降、おまけに風まで強くつて……。

◎十二月十八日 市道山

井田、井上、牧原、谷、

織田

静かな静かな年の暮れ。落葉を踏む足音だけがカサコソと。

◎一月二十二日 二子山

井上、嘉納、宮崎、岩村、諸節、跡部、織田

海の方こうに富士山が見えました。

◎二月十八・十九日

夜叉神峠

跡部、井上  
風もなく、雲もなく、あるのはたゞ雪ばかり。

◎三月二十六日 正丸峠

久野、宮崎、吉野、郡司、谷上

二つに別れて出発。不思議なことになんと落ち会えました。

◎四月二十二・二十三日

吾妻郡山

(ワンゲル歓迎ワンダリング) 嘉納、井上、跡部、

時田、菅谷

雪に降られて、リーダーに

すっぱかされて。それでもスタンツで現役のどきもをぬいて。カンラカラカラ……

◎五月二十八日 西丹沢

亀井、吉野

◎六月二十五日(夜行日帰り)

霧降高原

郡司、吉野、谷、密鳥

◎七月三十日 江の島海岸

宮崎、嘉納、米屋(家族一・五名)、江崎、諸節、跡部、時田

照りもせず、曇りもせず、結構な天気でした。夏期合宿の打合せも行なっておりました。

○・五名に入っている小坊主も始めて入る海に大喜びでした。



寿寿寿  
結婚おめでとう  
寿寿寿

☆新郎 江崎伴雄 (三期)

新婦 江崎幸子 (旧姓森)

コロンビアでワンゲルを作り、よく山に、スキーにと出かけ、OB一、二をあらそうワンダラーと思いきや、まったく別の所で話を着々と進めめでたくゴールイン。のほほんとしてる連中の目をあざむきハネムーンはヨーロッパに二週間。イタリアはローマから、スイスをひっかけてバリまで、いやはやうらやましい事です。暑い夏が来たら暑い暑い彼等のスイートホームにおでかけ下さい。涼しい湘南の海と寒いスイスの山につれていつてくれる事でしょう。

☆新婦 西村郁代 (旧姓倉田)

(二期)

新郎 西村義武

とき 昭和四十七年四月百



ところ 大阪某所

知る人ぞ知る。関西支部の皆さんも御存知ですかね。新居は高野山、金剛山、生駒山などの山脈が眺められる静かな田園地帯だそうですよ。

☆新居 塚原伸一郎(二期)  
新婦 塚原純子(旧姓船渡)  
とき 昭和四十二年五月二十九日

ところ 学士会館

「妻をめとらば才たけて、みめうるわしく情あり」の言葉がピタリくる。奈良女子大卒の才女をそばに置いて、新郎の鼻の下も長々としておりました。結婚式に出席するということは全くつまらないものです。と誰かがボヤいておりましたが、でもワングル代表は、ワングル教科書にある変な歌を連体責任で歌ってきました。

(追記) 他は情報不完全に付次号に致しました。悪しからず。

## 猪苗代でOB会(?)

郡司直樹(四期)

一月下旬の週末に、今年も猪苗代スキー場へ滑りに来たスキー狂の吉野大ちゃんと私、Y W V指定の民宿へ着くと、

夜行列車での寝ぼけまなこも、もうすつかりお馴染みのお婆ちゃんからOB仲間の活躍振りを聞くに及んで、目も頭もやつとはつきりしてきた。

例年の雪不足から豪煮やした現役達は、正月のスキーを三年程続けた猪苗代から、今年古巣の樽池スキー場に移したら、今シーズンには積雪が早く、猪苗代も正月から絶好のコンディションというわけでもあるまいが、OBが頻繁に入れ替り立ち替りのありさま。

二週間前は五期の女性達、

密島の馬力には仲々ついていけない。

日曜日は早朝から騒がしかった。夜行で到着した者、早くから滑りに行く準備をしている者。ワングルの合宿ではないのだからとゆつくり寝ようとした我々も、谷さん達の到着で起こされてしまった。

午前中は快晴で、湖の景色をリフトから眺めながら滑っていたが、谷さん達夜行到着組の六名がゲレンデに姿を見せた午後は天気が崩れ始め、三時頃にはゲレンデの下の方では雨、上の方では氷が降り出す始末。

我々は日曜日に六名と別れて帰京したが、帰路大ちゃん曰く、「猪苗代にくと雨になる」——(卓実彼は昨年正月にきて降られていたので)



# トビックス アレ！コレ！

◎——暮れにダンスパーティーがありました。指導役の坊やがぼやいていました。ワンゲルの連中は運動神経がにぶいであつて。

最近は何ほど山を歩かないから、運動神経がにぶくなつてきたのか、ワンゲルに入つてくるのはもともとにぶいのか、そんな事俺は知らん。

◎——追コンバがいつものように十二月にありました。ところがその日に事務局の忘年会があつて、OBの出席者は四日市から金田、近藤、浜松から奥野、大阪から東京出張中の岡本幸、地元から跡部、谷上、所、江角、菅谷、原隆、密島、井上。せつかく遠くか

らやつて来たのに、昔の仲間が来ないとは何ごとだとキータ君はおかんむり。地元の連中は現在のワンゲルが自分達がいいた頃と異質な感じを持つらしいけれども、地方に散つた連中は自分のいた頃のワンゲルをそのまま心の中に持ち続け、また現在もそのまゝだと思ひ続けているよう。地元の人よ、あまり早くふけこみなさるな。

◎——正月の笹ヶ峰は雪がいつぱい。そしてリフトの近くだけ人がいつぱい。我々の冬テントのあたりは実に静か。山小屋建設予定地はもつと静かだつたけれども。よく降るねエ。一晩でテントが半分以

上りまつちやつたよ。オーバースニーズをはき、ワッパをつけて下りのリフトにただでのつてくるなんぞはにくいねエ。

◎——正月のカルタ会。むかえて八回。これはOB、現役合同の新年会にかわつてきました。

今年の参加者は、皆勤賞の白井、今も元気を金田、女の子にさつと目の前の札を持つて行かれる跡部、仙台からはるばる永田夫妻、今もつてゲテモノ食いで名高い牧原、待ちぼうけをくわされごきげんなための中村、さつそうとしたダンナぶりの亀井、東京からどえらく時間をかけてやつてきた岡本、諸角、大部カルタの腕のおちた所、先生の零囲気の出してきた須賀、半信半疑であらわれた蓮尾、アルコー入りであらわれた清水、彼

女の写真をもつてやつてきた矢島、カルタよりも何の方がと菅谷、久野、そしてまだ主催をやらされている井上。カルタを適当に、それからゲームを二つ三つ。二分半でカルタ会に出席している人の名をできるだけたくさん書くなんてゲームはどう。これで現役にどうい子がいるか少しはわかつたでしょう。また現役にもOBがいくらかわかるうつていうもの。そういえばこの四月、二年になつたある女子が亀井を覚えてたよ。

◎——OB連中の動きがつかめないから、話は自然現役中心になる。まあこちらのリーダーが小さすぎてなかなか情報キャッチできずにいると思つてあきらめて下さい。みんなに報告したい事があつたら、ハガキの一枚にでもつけて流して下さいよ。大き

く公表してあげますから。

◎ 別項にくわしく書かれると思いますので、簡単に報告。

バンパーまでやってあちこちから金を集めて、苦勞して買ってくれた冬テンは四国の空に灰と消えました。ワンゲル十周年になります、最大の事件じゃないですかね。

### 名簿の訂正

- 一〇〇一 嘉納秀明
- (住所) 茅ヶ崎市浜竹三ノ五ノ五四
- 一〇〇七 松本正雄
- (住所) 中郡伊勢原町東大竹一二七七
- 二〇一五 吉野大次郎
- (住所) 東京都世田谷区駒沢二丁目四〇番四号
- 二〇一八 塚原伸一郎

(住所) 東京都足立区東和三ノ十三 五ノ二〇五号

二〇三〇 西村郁代(旧姓倉田)

(住所) 堺市引町二丁目二一

一七 南海住宅内

二〇二二 宮崎 紘

(住所) 横浜市南区中里町

二九五 磯方

三〇三六 井上 肇

(住所) 鎌倉市台二ノ一一

七

三〇四四 石田陽子

(電話) 自宅〇四六三一

二二一五〇〇五

三〇四五 横手敏江

(勤務先) 神奈川県立精神薄

弱者更生相談所

〇四五一三九一五五八八

四〇八六 織田充子

(住所) 川崎市今井町二九五

五

五一二八 所 絢子

(住所) 藤沢市片瀬四ノ一五

ノ一二

六一七五 亀井昭子

(旧姓 片野)

(住所) 鎌倉市山ノ内九五四

六一六〇 岡崎美奈子

(住所) 横浜市戸塚区和泉町

三七二一 教職員住宅

二ノ二号

### \*編集後記\*

連日の猛暑にビールピンも不足気味と聞いておりますが、風の音にぞおどろかれぬる季節を迎えれば、今年も又秋がやってきます。

OB会報も長らく御無沙汰しましたが、やつと七号を発行する事ができました。

しかし内容もあまり間を置きすぎたため陳腐になつてしまつたものもあり、寄稿して下さつた方々には誠に申しわけなく思います。

とにかくも新鮮味のある内容にしなれば、と痛感して印

刷所へまわした次第です。  
お許しあれ!!

### OB会報 第七号

編集責任者 米屋・密島

発行責任者 松本正雄

横浜市鶴見区生麦三ノ五

印刷 板橋 贈写堂

電話 (五〇二)一〇二六